

令和３年度 県立真壁高等学校自己評価表

目指す学校像 文武両道の校風の下、全ての教育活動をととして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 すべての教職員の協力により、基本的生活習慣の確立や規範意識について、課題のある生徒は減少した。教育活動全般をととして、これまで以上に自己肯定感を育み、達成感や自己有用感をもてるような取り組みを構築したい。 2 T Tによる授業や習熟度別学習を全ての学科で継続して実施した。コロナ禍の中、可能な範囲で、工夫しながら、主体的・対話的で深い学びとなる授業展開を試みた。相互授業参観やＩＣＴ活用の研修を実施するなど、さらなる授業改善を目指す。生徒の基礎学力の定着を図ることはもちろん、進学を希望する生徒の学力向上に向けて取り組む必要がある。 3 進学・就職合わせて94%の進路決定率であった。今後は、3年間を見通した進路指導の一層の充実を図り、主体的に進路選択する能力や態度を育成する必要がある。また、各科から4年制大学への進学者を輩出する取り組みが必要である。 4 新型コロナウイルス感染症の拡大により、生産物販売、文化祭、クラスマッチ、真壁のひなまつり等の行事が中止、規模の縮小を余儀なくされる中で、代替案の検討等を行うなど、実施可能な方法を模索しながら、積極的な姿勢が見られた。生徒数が減少する状況において、働き方改革の視点も踏まえた部活動の活性化が課題である。	・あいさつの励行 ・基本的生活習慣と授業規律の確立 ・安心安全な学校づくりの推進	① 登下校時、授業・実習、部活動等を通して、場に合ったあいさつの励行を促す。 ② 生徒のよい面を認めて伸ばす指導を基本にする一方、毅然とした粘り強い指導を徹底し、基本的生活習慣と授業規律を確立する。 ③ 生徒観察、面談等を通して生徒理解に努めるとともに、家庭や関係機関等と連携していじめのない安全な学校づくりを推進する。	B
	・生徒の実態に合った授業の工夫 ・基礎学力の定着 ・自学自習の態度の育成	④ 習熟度別指導や少人数授業、T Tによる指導、ＩＣＴ機器の活用等により、よりわかりやすい授業を目指すとともに、生徒の実態を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善を目指す。 ⑤ 各教科との連携を密にして、学年全体で生徒一人一人の成績状況や推移を把握して、基礎基本の定着を図る。 ⑥ 学習意欲の向上を目指し、補講や個人指導を実施するとともに、ＩＣＴ学習室の活用などにより、自学自習の態度を育成する。	B
	・進路意識の計画的・系統的な啓発 ・地域を担う人材の育成 ・自分で考え表現する力の養成	⑦ 進路だより、学年集会や進路講演会等を活用して、計画的・系統的に進路意識の啓発を図るとともに、ＩＣＴ学習室の活用により、進路情報に自らアクセスする能力や意識を身に付ける。 ⑧ インターンシップや地域貢献活動などの体験的活動の実施、地域人材の積極的活用、資格取得の奨励等を通して、勤労観や職業観の醸成を図り、地域を担う人材育成を進める。 ⑨ 社会においては場に応じたコミュニケーション能力が重要であることに鑑み、自己認識を深める機会を積極的に設けるとともに、自分で考え表現する力を培う。	B
	・主体的に取り組む態度の育成 ・特別活動への積極的な参加の奨励 ・豊かな心を育む教育活動の充実	⑩ 学校行事や生徒会活動に生徒が主体的に参加・運営し、達成感や自己有用感を高められるよう支援する。 ⑪ 部活動への加入を奨励し帰属意識を高めるとともに、農業関係高校として各種コンテストや発表会等への積極的な参加を奨励する。 ⑫ 校内美化の徹底及びボランティア活動・社会教育活動等の推進により、生徒の自主性と豊かな心を育む。	B
	・保護者や地域と連携した教育活動の活性化 ・教育活動の積極的な情報発信 ・創意・工夫を生かした事業の推進	⑬ 学校行事、学校説明会、授業公開等を通して、保護者や地域の方々に本校の教育活動を理解してもらい、協働して本校の一層の活性化を図る。 ⑭ 生徒の活躍等を学校ホームページにタイムリーに掲載するなど周知・広報に努める。 ⑮ チャレンジプロジェクト事業である「真壁サンシャイン」プロジェクトを精力的に展開する。	
	・働き方改革の推進	⑯ 校務分掌において、業務の精選やチーム体制の強化、平準化を進めるとともに、全職員の連携により業務の分担と軽減を図る。 ⑰ 部活動においては、練習方法を工夫するなどして、効率的な運営に努める。	B

三つの方針			具体的目標		評価		次年度への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)		教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献できる人材		B	B	目指す資質・能力を育むための授業等における具体的な目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)		生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成するとともに、3年間を見通したキャリア教育を推進し、地域等と連携した取組の充実を図り、生徒の進路希望実現		B		学校の教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)		○専門学習に取り組むため、中学までの基礎学力がある生徒 ○実習や地域連携活動が多いため、主体的に活動等に取り組める生徒 ○将来、地域社会に貢献するため、農業・石材・食品の知識・技能を極めようとする意欲のある生徒 ○地域を理解し、地域の人と協働して学ぶことが出来る生徒 ○進路実現のため、資格取得や検定への取り組みに意欲がある生徒		B		入学希望者やその保護者、中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示
評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度への主な課題
教科指導	国語	基礎学力の向上を図る。	読み・書き・表現に重点を置き、豊富な語彙の習得を目指した授業展開を行う。(全学年) ④		B	B	・基礎学力の定着を目指した授業づくり ・ICTを効果的に活用した授業づくり
			漢字検定等の資格取得を推奨し、取り組むことで漢字能力や語彙力の向上を図る。⑥		C		
			進路指導の一助とし、必要に応じた作文・小論文の指導を行う。併せて言語による自己表現力を高める。(1・2・3年) ⑥		C		
		授業内容の研鑽に努める。	授業内容、進度、教授・評価方法等について教科内で研究を積み、情報の交換・共有を図る。④⑤		B		
	地歴公民	基礎学力の向上を図る。	小・中学校で学習した内容の復習を織り交ぜながら授業を展開する。⑤		A	B	・成人年齢引き下げに伴い、早い段階で契約やクレジットカードの利用について理解を促す必要がある。 ・オンライン授業の取組について
			教科書の内容を定着させるため、プリントに繰り返し取り組ませる。④		B		
		社会的事象への関心を高めさせる。	授業の中でICT等を活用して新聞記事やインターネットのニュースをとりあげ、時事問題を積極的に紹介および解説する。⑨		B		
		進路を見据えた授業を展開する。	各学年の進路活動と関連させ、進路意識の向上や就職・進学試験につながる実践的な授業を展開する。⑦⑧		B		
	数学	基礎学力の定着	中学校で学習した内容の復習も授業に取り入れ、基礎学力が定着するように練習する時間を確保する。計算問題を定期テストに多く出題し、基礎・基本の徹底と計算力が定着するように継続して指導する。④⑤⑥		B	B	・授業内で小テスト等を実施し、基礎学力の定着を目指す。 ・ICTを活用した授業づくりに取り組む。
		授業の内容理解の向上	ICTを活用し、生徒の授業理解の定着を図る。特に、理解の不十分な生徒には机間指導と補足プリント等で個別指導に努める。第1においては、ミックスホームルームで習熟度別授業を展開する。また、普通科においてはTTで授業を実施する。④⑤		A		
		わかる授業の展開	授業内容を精選し、主体的・対話的な学習活動を取り入れ、生徒が主体的に学ぶことのできる授業を工夫する。また、理解力の高い生徒には、補習や追加課題等を実施し、更なる理解の向上に努める。④⑤⑥		B		

教科指導	理科	基礎学力の向上を図る。	基本事項の確認をしっかり行い、対話や小テストで理解を図るとともに、知識と日常生活との関連が意識できる指導をしていく。 ④⑤	B	B	・ICTの活用方法が限定的だったので、さらに多角的に活用できるようにする。 ・実験実施回数を増やす。
			個々の生徒との対話を通して個性を把握し、それに応じた授業展開をすることで学力の定着を図り、更に高度な内容を取り入れて、学力の向上に努める。 ④⑤⑥	B		
		興味・関心を高める授業、わかる授業の実践に努める。	情報収集とその活用のために、生徒の活動にICTの利用を積極的に取り入れ、興味・関心と活用技術を高める。 ④	C		
			生徒や授業に関する情報の共有と活用を意識し、研修や教科での協議を行い、興味・関心を高める授業、わかる授業の実践に努め、自学自習の意欲を誘う。 ④⑥	B		
	保健体育	保健の学習に興味を持ち、生徒が主体的に学ぼうとする授業を目指す。	喫煙・飲酒の害、性感染症など、生徒にとって身近な話題を、時事的なニュースと関連づけて興味・関心を高め、心身の健康について自己の立場から課題を明確に出来るようにする。 ④	B	B	・更なる体力向上のため、そのとき行っている種目の特性に応じた「体づくり運動」（補強運動）を準備体操後に取り入れる。
			ICTの活用等で本時の学習をフィードバックし、知識の定着を図る。そうした知識の積み重ねにより保健に関する関心を高め、実生活に応用しようとする態度を育てる。 ④	B		
		生涯を通じたスポーツライフの基盤をつくる。	体づくり運動を準備運動として取り入れ、適切な運動量を確保し、基礎体力の向上を図りながら体を動かす楽しさを実感出来るようにする。 ④	B		
		基本的な生活習慣の定着や運動意欲の向上を図る。	速やかな整列・集合、挨拶、ジャージ着装を徹底し、授業に臨む基本的な態度を身につける。 ① ②	A		
			体力テストや持久走などの記録を生かし、生徒の意欲を高めていくような工夫をする。 ④⑥	A		

教科指導	音楽	音楽の基礎的知識を習得し、音楽表現の楽しさを味わう。	義務教育段階の学習内容を学び直しながら、音楽の基本的知識を習得できるよう題材設定を工夫する。 ④⑤⑥	B	B	・ICTの効果的な活用方法について工夫する。 ・言葉活動の充実を図る。
		日本及び地域の伝統音楽に親しむ。	生徒同士で意見交換し表現を工夫する場面を適切に設定し、演奏する楽しさを味わわせる。 ④⑤⑥⑧⑨	B		
	外国語	基礎学力の向上を図る。	音読の指導と小テストを行い、英語の読む力と自信をつけさせる。 ⑤	B	B	・ペアワーク、グループワークを取り入れた授業工夫が必要である。 ・英語をアウトプットできる活動を増やす。
			語彙指導や基本文の暗記テスト等を実施し、書いたり話したりするための基礎力を育成する。 ⑤	B		
			英語検定の合格を目指し、個別指導を行う。 ⑥	B		
		英語で話す喜びを実感させる。	ALTと連携し、英語で話す機会を多く設ける授業の展開をする。 ④	B		
			ペアワークやグループワークを通し、生徒が自ら学び合う機会を多く設ける。 ④	C		
			発音やコミュニケーション能力を問う課題を課し、英語力の向上を目指す。必要に応じて個別の指導を行う。 ④⑤	A		
	家庭	基礎学力の向上を図る。	学習内容を通して、生活の身近な問題を解決していく力を身につけさせる。 ②⑤⑥	B	B	・ICT を効果的に活用した授業展開 ・実習における特別支援が必要な生徒への対応方法
		実験・実習を充実させる。	家庭生活に関心を持たせるとともに、生活について深く考える力を養えるようにする。また、環境問題や地産地消を理解し生活に役立てられるようにする。 ⑤⑥	B		
			体験学習を通して、生徒の学習意欲を高め、自分自身の家庭の生活を見直すことができるようにする。 ⑤⑥	B		
	情報	情報活用の実践力を養う。	実習を通し、コンピュータやソフトウェアの操作の習熟に努める。 ④	B	B	・ICTの効果的な活用法
			多様な情報について、テーマを設定するなどして適切に処理をできる力を養えるようにする。 ④	B		
			情報社会の問題点についても、実習の中で理解が深められるように努める。 ④⑤⑥	B		

	交通安全教育の推進及び教育相談の充実を図る。	交通事故の防止や日常生活における安全確保に向け安全指導を充実させる。また、警察署・交通安全協会等関連機関と連携し、講演や実技講習会を実施する。③	A		ともに、その他の対応法についても体制を整えていく。
		スクールカウンセラーを有効に活用し、支援を必要とする生徒に適切に対応する。また、いじめを早期に発見・解決できる安心・安全な学校づくりの推進を図る。③	A		
進路指導	進学指導、就職指導を充実し生徒個々の進路実現を図る。	各学年と連絡を密にし、進路ガイダンス・インターンシップ等の体験を通して、3年間を見通した体系的な進路指導を行う。⑤⑥⑨	A	B	・ 普段の授業や基礎学力診断テストを通しての基礎学力の向上を図る ・ 進路未決定生徒に対してさまざまな方法で、働きかけ、支援をする。
		進路説明会、基礎学力診断テスト等を実施して、生徒の進路希望の具現化を図る。④⑤	B		
		「真高 NEWS」を年3回発行し、積極的に情報を提供する。⑤⑩	B		
		面接指導、小論文指導、課外授業等を企画し、多様な入試形態に対応できる実力を養い、各学科1名以上の大学進学者を目指す。⑤	B		
		あいさつを励行し、服装・頭髪等を含め社会に出るための基本的態度を養う。①②⑤	B		
		ハローワークとの連携を図るとともに、企業訪問を積極的に行い、新規企業の開拓に努める。⑤	B		
特別活動	学校行事や各種生徒会活動、部活動、HR活動を通し、集団の一員としての自覚を深め、生徒一人一人の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性の育成を目指す。	生徒会活動・委員会活動、部活動など活躍の場を広げ、それぞれの活動の中で、自分の学校生活や社会生活について、見つめ・成長していく意識を培う。そのための手立てとして、キャリアパスポートの活用を推進する。⑩⑪⑫	B	B	・ コロナ禍での学校行事をさらに工夫して、実施していく。 - 特に、連帯感、責任感、前向きな姿勢や素養が培える内容を検討していく。
		学校行事（晨光祭・クラスマッチ等）を通して集団の中での役割遂行の大切さを理解し、成就感を享受させる。部活動の加入率を向上させ学校に対する帰属意識を高め、幅広い人間関係の構築を目指す。⑩⑪	B		
		HR活動や部活動を通し、生徒相互の連帯を深め、責任感、使命感を持ち、何事にも前向きな姿勢や素養を培い、自己有用感を高める。⑩⑪⑫⑬	B		
保健厚生	心身の健康増進に努め、知識と能力を育てる。	講演会などにより性教育、健康教育を推進する。②	B	B	・ 新型コロナウイルス対応は、継続して実施する。 ・ 様々な問題を抱えた生徒に対応する人員の配置が必要。
		心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。②③	A		
		個別相談等による健康相談活動（スクールカウンセラー等の活用）を推進する。③⑨⑬	A		
	健康で安全な学校環境の整備に努め、公德心を育てる。	施設・設備の安全点検・管理を徹底する。⑩	B		
		防災組織の編制・防災避難訓練の実施により、非常時の安全教育を行う 清掃用具の管理と清掃監督指導の徹底に努める。⑩⑫	B		
図 書	本に親しむ習慣をつけ、生徒が利用しやすいように図書館の環境を整える。	情操を豊かにする本を整理し、閲覧しやすいようにする。⑫	B	B	・ 図書館の利用促進 ・ 計画的な環境整備 ・ 文章や情報を読み解き、対話する力を身につけさせる。
		生徒・職員の希望を考慮し、書籍を購入、整備する。⑤	A		
		「図書館だより」の定期的な発行と「おすすめ本」の掲示により、利用率の向上を図る。⑭	B		
		環境整備を行うとともに、幅広い分野の蔵書を増やし、授業やHRなどにおける図書館施設の利用を促す。⑥	B		
渉 外	PTA活動の活性化を図る。	各種行事（PTA総会・支部総会等）への参加率を高める。⑬	B	B	・ 新型コロナウイルスのため、行事が実施できなかった。 ・ 現在の社会状況にあった、PTA活動・内規の見直しを行う。
		各種委員会を活性化する。 進路委員会 = 企業・学校の見学及び研修を充実する。⑦⑬ 広報委員会 = PTAだよりを発行し、市内にも配布する。⑬⑭ 生徒指導委員会 = 挨拶運動、地域巡回指導を実施する。①②⑬ 学年PTA = PTA農園等で会員相互の理解や親睦を深める。⑩⑬⑭	B		
事 務	省エネルギー・省資源に努める。	教職員の共通理解を求めながら電気使用量、上水道使用量、燃料使用量、用紙類使用量等を削減し、環境対応品の購入増に努める。	B	B	・ 予算を有効活用し、学習環境の充実を図る。
	学習環境の整備に努める。	校内の破損箇所への迅速な対応と共に環境美化に努める。また、教育活動が円滑に進められるよう効果的な予算執行を図る。	B		

第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、他者に対する思いやりを持った言葉遣いや態度を身につけさせる。①②③	C	B	・思いやりのある言葉遣いや態度を育てる指導、服装指導は継続して行う。
		遅刻・欠席、服装等の乱れを正し、自己指導能力を育成する。②	B		
	問題行動の未然防止	指導カードによる生活習慣指導や巡回を行い、些細な問題行動を見逃さず、家庭と連携し生徒理解を深め問題行動の未然防止に務める。②③	C	C	
	基礎学力を身につける	日々の授業に集中させると共に、教科担当と連携し、個に応じた指導に努め、家庭学習の習慣を定着できるよう指導する。④⑤⑥	C	C	
	地域を知り地域に貢献する人材の育成	ぐるっと筑波、先進地見学、地域活動を通して、卒業後の進路につながるきっかけづくりをキャリアパスポートを活用し、今やるべきことを継続して取り組めるように指導する。⑧⑨⑩⑫	B	B	
進路ガイダンスを実施し、職業意識と勤労観を高め、具体的な進路目標を設定させる。⑦		B			
第2学年	基本的生活習慣を確立させる。	挨拶や言葉遣いなどの礼儀指導を徹底し、他者との関わり方を身に付ける。①②⑨⑩⑪	B	B	・進路活動に対する意識を向上させながら、礼儀や服装等を一貫して指導し、基本的生活習慣を確立させる。 ・進路決定に向けて、基礎学力の向上と試験対策の充実を図る。 ・教員間、保護者、関係機関等との連携を密にし、生徒の変化に対応する。
		遅刻や欠席、服装・頭髪等の乱れをなくすとともに、自己指導能力を育成する。①②⑥⑨⑩⑪⑫	C		
	授業への取り組みを向上させる。	ぶれない指導で授業の準備や心構えなど、学ぶ態度と環境を整える。②④⑤⑥	B		
		教科担当者と学年が連携し、個に応じた指導に努め、学業上の不適応を低減する。②④⑤⑥	B		
	進路意識を向上させる。	生徒の授業態度及び理解度などの情報を共有し、学習状況の改善に努める。④⑤⑥	B		
		授業やホームルーム、特別活動、資格取得などあらゆる場面において進路に繋がる指導を徹底する。⑦⑧⑨⑩⑪⑫	B		
		進路ガイダンスやLHR活動の中で、職業意識と勤労観を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させる。⑥⑦	B		
	問題行動の未然防止に努める。	大学進学コーディネーターを活用して進学意識を高める。⑦⑧⑨	C		
		道徳プラスや学校行事、特別活動などを通して、集団生活における規則や行動を理解させ、さらに仲間を支え思いやる心を育成させる。②⑨⑩⑪⑫	B		
		校内外巡視の励行、生徒の観察や声かけ、個人面談等の実施、家庭との連携と情報共有などを徹底し、些細な変化も見逃さない。②③⑤⑥	B		
		問題行動への素早い対応を心掛け、生徒理解と教員間及び家庭や関係情報の共有化に努める。②③⑨	B		
第3学年	基本的生活習慣の確立	挨拶や言葉遣いなど場面に応じた礼儀指導を徹底し、他者との適切な関わり方を身につける。①②⑨⑩⑪	B	B	・進路活動を意識した礼儀指導を徹底する。 ・定期的な生徒面談を通して、生徒理解や進路指導、問題行動の未然防止に繋げる。
		登校指導や校内巡回指導等を徹底し、遅刻や欠席をなくすとともに服装・頭髪を整えさせ、自己指導能力を醸成させる。①②⑥⑨⑩⑪⑫	B		
	進路決定への意識向上	授業やホームルーム、特別活動、資格取得などあらゆる場面において進路に繋がることを理解させ、進路活動へ向けた態度を身につけさせる。⑦⑧⑨⑩⑪⑫	B		
		日頃の学習状況を点検し、個に応じた進路指導及び適性を見極めた進路決定を推進する。⑥⑦⑧⑨	B		
		進路ガイダンスや進路講話などを実施し、職業意識と勤労観を高めるとともに、進路目標と進路決定に向けた具体的方策を明確にする。⑥⑦	B		
	積極的な授業への取り組み	ぶれない指導で授業の準備や心構えなど、学習態度と環境を整える。②④⑤⑥	B		
		教科担当と学年が連携し、個に応じた指導に努め、学業上の不適応を低減する。②④⑤⑥	B		
	問題行動の未然防止	授業の態度、理解度等の情報を共有し、学習状況の改善に努める。④⑤⑥	B		
		学年行事や学校行事、特別活動などを活用し、集団生活の規則や行動を理解させ、仲間を支え思いやる心を育成させる。②⑨⑩⑪⑫	B		
	校内外巡視の励行し、個人面談や家庭との連携・情報共有などを徹底することで、生	B			

		徒の些細な変化も見逃さず、素早い対応と生徒理解に努める。 ②③⑤⑥			
		特別支援コーディネーターや養護教諭との連携を図るとともに、関係機関からの指導・助言を得ながら発達段階や障害等に応じた支援を行う。 ③⑤⑥⑨	B		
いじめ防止対策会議	未然防止への取り組み	授業、ホームルーム活動、特別活動など全ての教育活動全体を通して、生徒の自己有用感や共感的理解の能力を培い、自己指導能力を高める。 ①⑥⑨⑩	B	B	・生徒との面談の機会を増やすとともに、SCと担任間の情報共有をさらに密にする。 ・タブレット等を利用したアンケート調査や生徒相談体制を整備し、いつでも悩みや相談を受けられるようにしていく。
		教育相談と個別面談、さらに必要に応じてスクールカウンセラー等を活用し、教育相談体制を整え、生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。 ③⑨	A		
	早期発見・早期解消への取り組みを徹底する。	いじめに関するアンケート調査を定期的に行う。また、保護者との連携を密にし、些細な兆候であってもいじめではないかとの疑いをもって対応し、早期発見に努める。 ③	A		
		いじめを確認した場合、まず実態を把握し、被害生徒を守り通すことを第一とし、全職員が協力して被害生徒の心のケアに努める。また、加害生徒への対応についても毅然とした態度で指導する一方、生徒の人格の成長に主眼を置いた指導の徹底を図り、いじめを繰り返さないよう支援する。 ②③⑫	A		
	関係機関との連携を徹底する。	学校だけの対応では問題を解消することが困難であると判断した場合、速やかに警察、児童相談所、法務局等の関係機関に相談し、連携の徹底を図る。 ③⑬	A		
	教職員研修の充実を図る。	実践的な研修を積極的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消等に向けた技能の習得、向上を図る。 ③	B		
		絶えず最新のインターネット環境等に関する研修を行い、教職員全体が情報モラルへの理解を深める。 ③	B		

評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分